

令和 7 年 3 月 1 2 日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立大岡山小学校
学校長 中山 晴義

令和 6 年度 目黒区立大岡山小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

(1) 第 1 回実施日時 令和 6 年 6 月 2 2 日 (土) 午前 1 0 時 3 0 分～午前 1 1 時 3 0 分

- ・学校経営の説明
- ・質疑・応答

(2) 第 2 回実施日時 令和 7 年 1 月 1 8 日 (土) 午前 1 0 時 3 0 分～正午

- ・四者による学校評価アンケート結果の説明
- ・次年度学校経営方針の説明
- ・質疑応答

2 参加者

第 1 回 飯田 学 (本校 P T A 元会長) ・ 金色 真佑 (本校 P T A 元副会長)

上原 秀一 (大岡山東住区住民会議実行委員)

小用 清美 (大岡山西住区住民会議実行委員)

第 2 回 飯田 学 (本校 P T A 元会長) ・ 金色 真佑 (本校 P T A 元副会長)

上原 秀一 (大岡山東住区住民会議実行委員)

小用 清美 (大岡山西住区住民会議実行委員)

3 評価の結果等

評価項目	四者による学校評価アンケートの結果分析 ◎ (成果)、● (課題)、 ⦿ (成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見
学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎保護者及び児童からは 9 割前後の肯定的評価を得ている。 年 2 回の学校公開、体育発表会や音楽会だけに限らず、大岡山まつり、研究授業など、保護者が参観できる機会を増加させ、積極的に学校の状況を公開してきた結果であると考ええる。	・40 分授業午前 5 時間制に取り組んだ 1 年目であった。時程の大幅な見直し、会議時間と教材研究の時間の確保等、生み出した時間を生かし、児童の学びや生活の質の向上を図るための取組を行ってきた。 ・児童が学ぶことに興味や関心をもてる教材の提示、児童が自ら学習課題・学習方法・学習形態等を選ぶことができる「自己選択学習」などの指導方法の工夫をすることで、	・会議の時間の確保や会議のある日と教材研究の日と明確に分けられている。40 分午前 5 時間制による時間の効果的な活用は進んでいる。 ・一方で教員の負担感、新しいことを始めたことにより、増したことは否めない。 ・24 学級という大規模校であるが故、教員の人材も豊富で、教員同士のフォローも十分に行われている。

		楽しい授業・楽しい学校づくりに努める。	
I 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について	◎保護者からは9割を超える肯定的評価を得ている。 学校だよりや研究授業の公開等を通じて、具体的に周知されると共に、理解が進んできた結果であると考え。	・学校だよりで、現在取り組んでいることを特集してきた。 ・昨年度に引き続き「心ゆたかな子に育てる」を重点目標とする。本校の特色でもあるなかよし班活動等の異学年交流を柱として、小・中連携による児童・生徒間交流等を促進する等、多様な関わりを設定することにより豊かな人間関係を育む。 ・また「自己選択学習の時間」「マイプランの作成・振り返りの時間」のより一層の充実を図り、自己調整力の育成を図る。	・心ゆたかな子に育てるを重点に置いていることは良い。 ・肯定的評価が100%ではないということは、1割は楽しいと感じていないということである。100%にすることは簡単ではないが、100%をめざす気概をもって、先生方には取り組んでほしい。
II 心の教育について ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について	◎保護者からは9割の肯定的評価を得ている。道徳授業地区公開講座において、パネルディスカッションを行うなど保護者・地域の方も参加する形としたことが効果として現れてきたと考え。 ◎児童からは9割前後の高い肯定的評価を得ているものの昨年度から4ポイントの低下となった。児童の道徳的実践力の向上に向けた取組の充実が必要である。	・プロジェクト「こころ」をさらに充実させる。道徳授業地区公開講座については内容や時間設定を再検討し、保護者・地域の方がさらに参加しやすい機会となるようにしていく。 ・また、道徳教育推進教師を中心に、本校の課題に即した道徳の全体計画や年間指導計画を作成し、教育活動全体を通して道徳教育の充実を図る。	・道徳授業地区公開講座のパネルディスカッションは、大変良かった。児童・保護者・地域が参加して、全く違う価値観があることに触れることができた。また、児童は多様な意見を聞いて、さらなる成長につながる。 ・今後も児童が、多様な考えや多様な価値観に触れていく機会を増やしてほしい。そして自分を大切に育んでほしい。そのためには、地域や保護者を交えていくことは大切である。

Ⅲ 学習指導等について ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、大岡山タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について	◎保護者からは8割以上（昨年度から4ポイント上昇）の肯定的評価を得ている。 日々の授業、習熟度別指導や自然宿泊体験教室の内容等について、好意的に捉えられていると考えられる。 ●児童からは低学年が86%の肯定的評価を得ているが昨年度から5.5ポイントの低下となった。個別指導を充実させる必要がある。 ◎高学年は96%と昨年度よりも2ポイント上昇している。学習が難しくなる高学年の授業においては、今後も一人ひとりの理解度に合った指導の充実を図る必要がある。 ◎全国学力学習状況調査の結果は、全国平均及び東京都平均を大きく上回っている結果が出ている。一方で、記述式の問題の回答率や個人差に課題がある。	・日々の授業については、目黒区学習状況調査等の結果分析に基づいた週ごとの指導計画の立案により、一層の授業改善を図っていく。また児童の励みとなる評価を行っていく。 ・低学年においては、T.T.の体制を活用し、一人ひとりの学習理解の進捗に合わせた、よりきめ細やかに指導にあたる。 ・高学年では、国語、社会、理科、体育等において一部教科担任制を取り入れた指導を引き続き行うことで、学習内容のより一層の理解・定着を図っていく。 ・学力調査の結果から、記述式の問題に対応したワークシートを準備したり、回答の好事例を示したりしながら、取り組む意欲を向上させる。 ・また個人差への対応については、個々の課題を丁寧に把握して、それに応じたきめ細かな指導を工夫していく。	・他人と比べるのではなく、昨年の自分今までの自分と比べて、自分がどれだけ伸びているかという目標設定ができると良い。 ・子ども同士の励まし合いや教師からの価値付け、声かけの充実などで、さらに自己肯定感を高めていってほしい。 ・マイプランが今年度から始まり、また、1日ごとではなく1週間単位で前の週のうちにプランが示されるため、学習や生活の見通しをもつことが容易となった。保護者としても準備等、見通しがもててよい。
Ⅳ 体育・健康教育について ・体力向上、健康の促進に向けた取組について	◎保護者から88%と昨年度から15ポイントの上昇が見られた。 体育科の校内研究に取り組み、体育科の授業の充実が進んだ。 さらに、研究授業の公開やアスリート	・東京都統一体力テストの結果を、学校健康トレーナーとプロジェクト「からだ」が協力して分析し、それぞれの学年の課題を明確にしている。それをもとに授業改善を図る。	・中休みが5分短くなったことが、子どもたちには物足りなさとして映っているのだろう。昼休みが延びたことよりも子どもたちにとっては印象強いのではないかと。 ・健康に関しては、朝食

	を招聘した授業を積極的に公開するなどして、保護者が直接的に体育・健康教育に触れる機会が増加したことも要因と考える。 ◎児童は、肯定的評価が昨年度から6ポイント前後の低下となった。体力テストの結果からは改善が見られる中で、できたことに対する日々の価値付けを徹底していく必要があると考える。 ◎東京都統一体力テストの結果からは、全国平均を超える学年もあるなど、昨年度と比較して全体的に改善の傾向となった。長座体前屈などの柔軟性については、今後伸ばしていく課題として明らかになってきている。	・ロング昼休みに設定している「マイスクールスポーツ」を計画的に取り組むことができるよう年間計画を策定して、児童が体を動かす機会を意図的に設定し、運動の機会を増やし、体力向上に対する児童の主体的な態度を育成する。 ・健康教育については、毎月の「食育の日」に担任が食育についての指導を行っていく。また、「めぐろ ここカラダシート」を活用して、家庭と学校とで連携を図りながら、児童の健康への意識を高めていく。	の重要性が高まっていると感じる。朝食をしっかりと摂ることの啓発が必要である。 ・正しい姿勢を大切にしてほしい。ストレッチをする機会を確保するなどして、姿勢を良くしていくことでさらに改善が進むと。
V 特別活動について ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて	◎保護者からは88ポイントの肯定的評価を得ており、昨年度から7ポイントの上昇となった。 ◎児童は低学年高学年いずれも9割を超える肯定的評価となった。 大岡山まつり、なかよし班活動や全校遠足等、自分たちで作り上げたという達成感が充実していたものとする。	・学級活動や児童会活動、クラブ活動、学校行事において、今後はより一層、児童が自ら考えて活動できる幅を広げていき、学校生活を楽しく豊かなものにする意欲や態度を育てる。 ・また、学校裁量の時間におけるなかよし班活動の中で行う班遊びや全校遠足に関しては、児童の主体性を生かしながらさらに工夫し、異年齢児童同士の望ましい人間関	・校外学習の充実が、学校生活全体の楽しさにつながっている。 ・主体的に活動できているから、やりがいを感じ、自分から進んで取り組もうとしている。 ・自然宿泊体験教室を始めとして、学校行事等が充実している。協働的な子どもの育成に効果を上げている。

		係を築く経験をさせ、 集団の一員としての 自覚を促すことを徹 底していく。	
VI 学校生活全般について <生活指導> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて	◎保護者からの肯定的評価は9割を超える肯定的な評価（2ポイント上昇）となっている ●低学年児童は、生活規律について昨年度から5ポイントの低下となっている。学校のきまりについて児童自らが考え、それを守って落ち着いて学習や生活をすることを徹底させる必要がある。	・教育活動全体をとおして、自他の生命、人権、個性や多様性を尊重し、人や物に対する思いやりの心を育てるため、「大岡山スタンダード」を基準とし、全教職員が共通した学校のルールの方針にあたる。 ・学校のきまりについては、代表委員会等を活用して毎年見直しを行うことで、児童にきまりを守り、協力してよりよい生活を築こうとする自主的な生活態度を育成し、規範意識を育てる。 ・また児童がマイブランを通して週毎の振り返りを重ねて、自分自身の変容をよりよく捉えられるように充実させる。	・学習用情報端末の使用ルールは、家庭においても大事である。学校での指導と共に、家庭での指導もしっかりと行っていく必要がある。 ・空き教室がなく、子どもが心を落ち着けるスペースの確保が難しい中で、先生たちは校内のスペースを工夫して活用している。
<防災教育・安全指導> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて	◎保護者は9割を超える肯定的評価となっている。計画的に実施している安全教育、情報モラル教育等への理解が広がったためと考える。 ●児童は9割前後の肯定的評価である。毎月の安全指導や避難訓練を着実に実行する一方で、児童が危険を予測し自ら危険を回避する能力を、さらに伸ばしていく	・「安全教育プログラム」を活用しながら、月1回の安全指導や日常的な安全教育、セーフティ教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室を実施し、安全教育の充実・徹底を図る。 ・避難訓練、「東京防災」を活用した安全指導等により、児童が危険を予測し自ら危険を回避する能力を高める。	・大岡山西住区の避難所運営訓練では、大岡山小学校を会場に行っている。 ・避難所として大岡山小学校の施設が機能することには限界があり、自宅避難について啓発する必要がある。 ・学校では引き続き安全指導を充実してほしい。

	必要がある。	引き続き、取り組んだことへの振り返りを行い、自他の命を守るために必要な力を身に付けられるよう、計画の見直しを図っていく。	
<幼・保・小・中連携> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について	◎昨年度から肯定的評価が11ポイントの上昇となった。学校だよりや学校ホームページを通して積極的に発信してきた成果であると捉えている。 また今年度から、5年生も参加したことで、より保護者に伝わりやすかったと考えている。	・次年度は、中学校区の再編に伴う新しい小中連携を次のような活動を計画で実施していく。 ・第5学年が中学校を訪問して授業や部活動を体験することで、進学をすることに希望や目標をもてるようにする。 ・第6学年は、いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議に参加して、他校の小学生や中学生と話し合う機会を設けて、いじめ問題に関することを一人ひとりが考えられるようにしていく。 ・また、小中連携の会における授業参観と協議の機会を通じて小学校と中学校の教員が9年間を見通した適切な指導を行う体制を構築する。	・目黒西中学校となる来年度は、大きく変わる年になる。来年度以降も引き続き、小中連携事業を推進・充実していただきたい。
VII 情報の発信、家庭・地域との連携について ・学校の情報発信の充実について	◎保護者や地域からの肯定的評価はいずれも8割を超える結果となり、昨年度からそれぞれ5ポイントの上昇となった。 ・学校だよりの紙面づくりの工夫、学校ホームページの定期的な更新、保護者連絡	・今後も、今年度の取り組みを継続発展させていく。特に、保護者や地域等によるアンケートの実施とその結果と改善策の公表・説明を適切に行う。 ・学校公開、保護者会、個人面談等を定期的に実施し、理解と参画	・学校だよりの学校長の巻頭言に、次年度に向けた取り組み内容が書かれており、とてもよい。それも年度末にまとめるのではなく、年度途中から月々に示されており、分かりやすい。 ・学校だよりに限らず

	システム C 4 t h H o m e & S c h o o l の配信時の標題 の工夫等、効果を上 げているものと考え る。	を得て、保護者・地域 と響き合う学校を目 指す。	様々な場で繰り返し 伝えられており、今後 も続けていってほし い。
VⅢ 教員の人材育成につ いて ・ 日常の職務をとおして 専門性と協働性の育 成、教育公務員の自覚 について	●アンケートでは、 96.7%と高い数値だ が、昨年度から3.3ポ イント低下した。組 織の改変、教育課程 の大幅な見直しの中 で、一部に自分の役 割を明確にもつこと ができなかった教員 もいたと考える。教 職員には、日常の業 務を通してこまめに 他の教員の状況を把 握し、必要な支援や 助言をしていく必要 がある。	・ 教職員一人ひとりが 自分の役割を自覚し、 使命を果たせるよう 日常的な機会をとら えて、管理職が指導 していく。 ・ また、校内研究の充実 やO J Tの会の実施、 教材研究の時間の確 保し、より充実させ る。	・ 1年目の校内研究の 成果と課題を分析し て、2年目のさらなる 充実につなげていっ てほしい。
Ⅸ 教員の働き方改革に ついて ・ 校務支援システムの活 用、「チーム学校」を意 識した業務分担等、組 織的な業務の効率化・ 最適化について	●昨年度から7ポイン ト下降した。「40分授 業午前5時間制」の 導入とそれに伴う、 時程の大幅な変更、 自己選択学習などと いった新しい試みが あった。その見通し をもつまでに時間が かかり、負担感を感じ た教員がいると考 える。	・ 今後は、勤務時間内 での教材研究時間と会 議の時間をより明確 にして、徹底してい く。 ・ また、会議の効率化と 時間設定を徹底し、メリ ハリのある働き方 ができるよう組織運 営をさらに徹底して いく。	・ 教職員の働き方改革 が、子どもたちの幸 せ、学校の楽しさの向 上につながっていく ということを、保護者 も地域も全体が理解 をしていく必要がある。
Ⅹ 服務事故の防止につ いて ・ 服務事故防止に向け た取組などについて	●初めての設問で教職 員の肯定的評価は 96.7%であった。一 部の教職員であると はいえ、服務事故防 止に向けた意識の向 上を徹底する必要が ある。	・ 今後も年3回の服務 事故防止研修は適切 に実施する。また、職 員会議や職員夕会を 通して全体での意識 向上を図ると共に、自 己申告面談等、個別の 機会にも管理職から 指導を徹底していく。	・ 服務事故については、 適宜啓発をされてい ることが分かった。服 務事故が起きないよ うに今後も引き続き 取り組んでほしい。